

チョウ目 シジミチョウ科

オオルリシジミ



1978年, 岩木山, 工藤忠

青森県ランク：E X 環境省ランク：絶滅危惧類

形態的特徴

大型のシジミチョウの仲間で、瑠璃色の翅を持つことからこの和名がつけられた。

分布等の概要

本州(東北・中部地方)と九州の3地域に限られた特異な分布を示し、東北地方ではすべて絶滅。県内では津軽地方に限られ、生息が確認されていたのは青森市内三内・豆坂高原(現青森空港付近)・弘前市や五所川原市・鶴田町にまたがる岩木山麓など合わせて16か所。年1回の発生で、幼虫はマメ科のクララを食べ、蛹で越冬する。

(三浦博)

ハチ目 コマユバチ科

ウマノオバチ



1937年, つがる市(旧森田村), 山田雅輝(黒石市所蔵標本)

青森県：A 環境省：準絶滅危惧

形態的特徴

雌は体長15~24mmで、およそ150mmもある長い産卵管を持っている。体は黄赤褐色で、翅には外縁に広い褐色帯がある

分布等の概要

県内では、黒石市・青森市・八戸市・山形村で古い記録がある。2001年に公表された森田、十腰内産の標本も1930年代産のものである。生息地は寄主であるシロスジカミキリの食樹となるハンノキ・コナラ・クリなどが生育する低地の広葉樹林である。年1回発生と思われる、県内では5月頃に成虫が現れるが、詳しい生態は不明である。

(山田雅輝)

ハチ目 コシブトハナバチ科

ルリモンハナバチ



1965年, 平川市(旧平賀町), 山田雅輝

青森県：A 環境省：該当なし

形態的特徴

体長13~14mm、太型の体型で、体色は黒色に青色毛による斑紋がある。小楯板は大きく、後方に強く伸び、後胸や前伸腹節を覆い隠す。後脚に刷毛がなく、翅は外縁で褐色を帯びる。

分布等の概要

本県は分布上の北限に当たり、八戸市沢里と平賀町唐竹で採集されている。平地から低地にかけて生息し、成虫は8~10月に出現し、アザミなどの花から吸蜜する。シロスジコシブトハナバチ又はスジボソコシブトハナバチに労働寄生する。本県では前者は1例の記録しかなく、後者も発生事例は極めて少ない。

(山田雅輝)

チョウ目 ジャノメチョウ科

ツマジロウラジャノメ



2006年, 深浦町, 工藤誠也

カマキリ目 カマキリ科

ウスバカマキリ



2002年, 五所川原市(旧市浦村), 市田忠夫

カメムシ目 マキバサシガメ科

タイワンナガマキバサシガメ



2002年, 六ヶ所村, 市田忠夫

青森県：A 環境省：該当なし 形態的特徴

眼状紋が前翅に1個、後翅に2個あり、前翅にはさらに白色紋が2個連なる。

分布等の概要

北海道・本州・四国に分布し、本州では東北地方から中部地方に分布。県内では各所に確認されているが、いずれも局地的である。6月中・下旬と8月中・下旬の年2回の発生で、幼虫の食餌植物はヒメノガリヤス・ヌカボなどのイネ科植物。

(三浦博)

青森県：B 環境省：該当なし 形態的特徴

体長50～65mm程度の他種より明らかに淡色な中型カマキリで、前脚基節の基部内面に長円形の黒色の斑紋があり、腿節内面には黒色の斑紋を欠くことから区別できる。

分布等の概要

戦前の古い記録として青森(県か市か不明)・八戸・森田村がある。1970年頃、市田忠夫が青森市造道の牧草地で、工藤忠が五所川原市狼野長根公園の草地で、それぞれ多数目撃している。戦後の文献上の確認例としては五所川原市(旧市浦村)相内・つがる市(旧木造町)平滝沼・つがる市(旧車力村)富苑しかない。

(市田忠夫)

青森県：B 環境省：該当なし 形態的特徴

体長7～10mmのやや細長いカメムシで、前翅が腹部の2/3までしか達しない短翅種であるが、まれに長翅型も出現する。近縁種よりやや濃色である。

分布等の概要

日本の既知産地は北海道別海町・尾駮沼のみ。尾駮沼では沼縁の最も開放水面に近い場所に局所的に発達するマツバイ型の植物群落に見られる。補食性の種で生息密度が高いものの、環境に対する許容度は極端に低いといえる。六ヶ所村の湖沼群は極めて貴重な塩性湿原であり、動植物のいずれの分類群においても希少種を莫大に有し、早急な調査と保全が必要である。

(市田忠夫)

チョウ目 マダラガ科

ベニモンマダラ



2006年, 青森市, 室谷洋司

青森県：B 環境省：準絶滅危惧

形態的特徴

開長 30mm 内外。前翅は黒地に紅色の斑紋で金属光沢が強い、美麗種である。

分布等の概要

本種は、本州(中部以北から東北部)に分布し、北海道(道南)は別亜種になっている。県内では、八戸市鮫・大久保・新井田・南郷、青森市朝日山・稲山・合子沢、六ヶ所村尾駁、大間町高岩、岩木山、黒石市六郷などから記録されている。昼飛性で草上を低く飛び、花に集まる。食草として、クサフジ、オオバクサフジ、ツルフジバカマなども記録されている。

(山内智)

チョウ目 セセリチョウ科

ギンイチモンジセセリ



2008年, 青森市, 工藤忠

青森県：B 環境省：準絶滅危惧

形態的特徴

前翅長は 15mm 前後。翅表は黒いが、後翅裏面には銀色の一文字が入っている。

分布等の概要

北海道から九州まで分布するが一般的に局所的。県内でも広く分布するが生息地は限られ、食餌植物のススキや、シバなどが生えた日当たりの良い草地である。成虫は5月下旬～6月下旬に出現、まれに8月中旬頃に2化が発生し、地表すれすれに低く飛翔する。

(室谷洋司)

チョウ目 アゲハチョウ科

ヒメギフチョウ



2008年, 夏泊半島, 工藤誠也

青森県：B 環境省：準絶滅危惧

形態的特徴

黄と黒のだんだら模様で、カタクリなどに吸蜜する姿から春の女神と愛称される。

分布等の概要

青森市・黒石市・平川市・大鰐町・三戸町・田子町と白神山地周辺部の西目屋村・深浦町(旧岩崎村)など広い分布域を示すが、いずれの産地も離散的で狭く限られている。年1回4月中旬～5月上旬に発生。卵は幼虫の食餌植物であるウマノスズクサ科のウスバサイシン・オクエゾサイシンに産み付けられ、幼虫期を経て6月下旬頃には蛹となり、そのまま越冬する。

(室谷洋司)

チョウ目 シロチョウ科

スジボソヤマキチョウ



2007年, つがる市, 工藤忠

青森県：B 環境省：該当なし

形態的特徴

シロチョウ科の大型種で、雄の翅表は濃黄色、雌は黄白色。全体がAランクのヤマキチョウに似るが、翅脈が細いことや行動面で飛び方が緩やかなことなどから区別できる。

分布等の概要

本州・四国に分布する。1990年代までは、県内の山地に広く分布し個体数も多かった。成虫は6月下旬～7月に出現するが盛夏に一時休眠し、秋にふたたび現れ成虫のまま越冬する。翌春、姿を現した母チョウは食樹の新葉などに産卵し、孵化した幼虫は6月までに蛹化する。

(室谷洋司)

チョウ目 シジミチョウ科

カバイロシジミ



2006年, 今別町, 工藤誠也

青森県：B 環境省：該当なし

形態的特徴

雄の翅表は青藍色で外縁部に細い黒帯、雌は暗褐色で基部に青藍色の色彩がある。

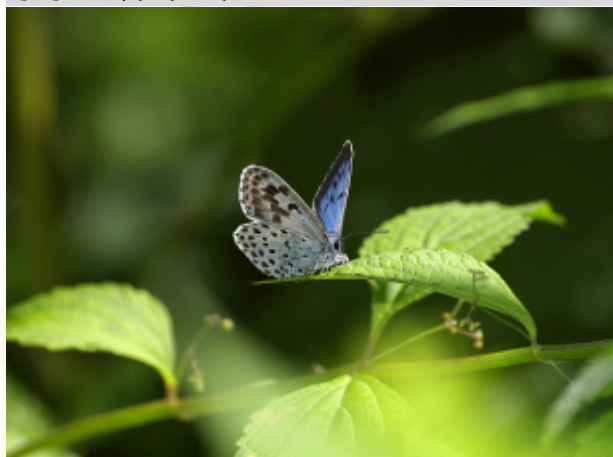
分布等の概要

国内では北海道と本県に分布。県内では下北半島の大間町から佐井村牛滝にかけてと、津軽半島では外ヶ浜町(寝月・竜飛)から中泊町にかけての、主に海に面した急峻な崖地や急斜面のヒロハノクサフジ群落にのみ発生する。発生は5月下旬～8月下旬。

(三浦博)

チョウ目 シジミチョウ科

オオゴマシジミ



2007年, 七戸町, 工藤誠也

青森県：B 環境省：準絶滅危惧

形態的特徴

前翅長は20～23mm前後。翅表は青藍色、裏面は灰白色でいずれにも黒斑がある。

分布等の概要

十和田湖から八甲田山系の城ヶ倉・折紙山などの渓谷地、白神山地の一部が生息地として知られ、急峻な崩壊地の植生内に生息する。年1回7月下旬～8月上旬の発生で、孵化した幼虫は4令までシソ科のクロバナヒキオコシの花穂を食べる。その後、クシケアリ類に運ばれアリの巣穴に入り、アリの幼虫を食べて育つ。アリは本種の幼虫の蜜線から出る甘露をなめ、その幼虫はチョウの幼虫に捕食される。

(室谷洋司)

チョウ目 シジミチョウ科

キタアカシジミ



2008年、つがる市、工藤忠

青森県：B 環境省：絶滅危惧 類 形態的特徴

中型のシジミチョウで、翅表は黄橙色。近似種のアカシジミとは区別が難しい。

分布等の概要

県内には屏風山一帯(つがる市)・岩木山東麓(弘前市)・青森空港周辺(青森市)などに大規模なカシワ林が多く、全国的にも屈指の産地が存在していた。成虫は6月下旬～7月に発生し、夕方の夥しい数の群飛は初夏の景物であった。9月までに食樹のカシワの越冬芽付近に産卵を終え卵で越冬。翌春、孵化した幼虫は葉を食べて成長し6月までに蛹化、羽化に至る。

(室谷洋司)

ナナフシ目 ナナフシ科

ヤスマットピナナフシ



1998年、五所川原市、山田雅輝

青森県：C 環境省：該当なし 形態的特徴

本種は体長42～52mmのカマキリに似た体形をし、翅は背面に折りたたんでいる。体色は緑色、前翅及び後翅前縁も緑色である。後翅の折り畳まれている部分は桃色の膜質である。

分布等の概要

蔵館・碓ヶ関・平舘・五所川原・相馬・八戸・十和田市・名久井岳・階上・十二湖で認められている。単為生殖をし、不完全変態で、幼生は6～7月に現れ、コナラ・ミズナラなどの葉を食べる。成虫は8月頃より現れ、卵は地表にばら撒くように10月頃まで産み続け、そのまま卵態で越冬する。

(山田雅輝)

コウチュウ目 オサムシ科

オソレヤマミズギワゴミムシ



1995年、むつ市恐山、山内智

青森県：C 環境省：該当なし 形態的特徴

体長は4.5mm前後。上翅は黒色であるが多少褐色を帯びる個体も見られる。

分布等の概要

本種は日本固有種で、本州の硫化水素の臭いのする温泉水の流れる水辺に生息する。生息環境が特殊なこともあり、本種の生息地は局所的である。本種は、1953年にむつ市恐山の宇曾利湖湖畔で採集された資料によって新種記載された。県内ではむつ市恐山で毎年確認されている。

生息地のむつ市恐山は下北半島国定公園に指定され、観光客も年々増加している。生息地には心ない一部の人が入り込み、生息場所が踏み荒らされている。特に、湖岸近くまで車両が乗り入れられ環境が悪化している。

(山内智)